

# 学年間の接続を意識した3歳児保育において、 安心感をもって自己発揮する幼児を育てる — 幼児のよさや可能性の見取りとそれを生かす環境の構成を通して —

特別研修員 幼児教育 村上 由紀恵(幼稚園教諭)

## 【幼児の実態】

初めての集団生活のため、不安をもっている。登園時に泣いたり、何をしたいか分からなかったりして、戸惑う幼児や何も言えずにいる幼児もいる。

## 【教師の願い】

幼稚園の楽しさを知り、教師や友達と一緒に伸び伸びと好きな遊びを楽しんでほしい。

## 【園における学年間の接続の課題】

進級時に幼児が戸惑いなく新しい担任やクラスに慣れるために、幼児の遊びの様子や成長の姿などの情報交換を年度末に行っているが、日頃から学年間で伝え合う必要がある。

## 【手立て1】

- ・「幼児期の終わりまでに育て欲しい姿」(以下「10の姿」)を視点にした幼児のよさ(😊)や可能性(★)の見取り
- ・職員や家庭との情報の共有

- (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え
- (10)豊かな感性と表現
- (9)言葉による伝え合い
- (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- (7)自然との関わり・生命尊重
- (5)社会生活との関わり
- (6)思考力の芽生え

### 見取りの視点「10の姿」

## 【手立て2】手立て1で見取った一人一人のよさや可能性を生かす環境の構成

### ～A児のこれまでの姿～

なかなか慣れず、8、9月頃は登園を渋っていた。初めての活動は泣いて不安がる。登園した日は、クラスでは自分のやりたい遊びを見つけてよく遊び、周りの様子や物事をよく見ている。

### 事例1 運動会に向けての活動「かけっこ」

A児はかけっこでスタートラインに立ったが、名前を呼ばれても返事をせず、スタートの合図があっても走らず、担任と一緒に黙って友達が走る様子を見ていた。

A児は、走り終わった友達と一緒に5歳児に手をつないでもらいベンチに行き、4歳児が走る様子を真剣な表情で見ている。

友達が4歳児の返事に反応して笑っているのを嬉しそうにニコニコしながら見ている。

😊 10の姿(1) 体を動かす活動に参加し、走ろうとする気持ちはある。  
😊 10の姿(2) 泣かずにスタートラインに立てたことは自立心の面で成長している。

A児のこれまでの姿から、無理に走らせない方がよいと判断し、A児の側にいた。

★ 10の姿(9) 今後は自分の気持ちを言葉にできるようになるとよい。

😊 10の姿(5) 運動会の雰囲気を感じ取っているのではないかな。

😊 10の姿(1) クラスの友達と過ごす安心感も持っている。  
😊 10の姿(2) 担任から離れても友達と一緒にいられた。

😊 10の姿(3) 言葉は発していないでも友達を通して感情体験をしている。  
😊 10の姿(5) 運動会の雰囲気を楽しんでいるのかもしれない。

★ 今後、経験を重ねていけば、友達と一緒に走るだろう。

その日の幼児の様子や教師の関わりを職員や保護者に伝えた。

### ～A児のその後の姿～

思い思いの遊びでクラスの友達と自ら関わり、一緒にかけっこを楽しむようになった。運動会当日は、教師が抱っこして走ったが、運動会終了時、A児は「楽しかった!」と言っていた。

A児にとって「楽しかった運動会」になった。

### ～B児のこれまでの姿～

初めての集団生活で、友達との関わり方が分からないのか、言葉でうまく伝えられず、教師が間に入ってやりとりすることが多い。好奇心旺盛で新しいことに「僕もやりたい」と寄ってくる。自然の変化などの気づきや発見が早い。

### 事例2 思い思いの遊び「ドングリを穫りたい」

B児は友達が持っていたドングリが欲しくて友達に聞き、クヌギの木の下に見付けに行ったら。

B児は、「あそこに登ったら穫れるかな」と、B児はロープにしがみつきの、クヌギの木に登ろうとした。

長い時間必死にしがみついたが、枝まで届かず降りた。

ロープに登りたい幼児が数人、並んでいた。

B児は順番を待ちきれずに「登りたい」と言ってきた。

ロープに登っている場面

### ～B児の次の日の姿～

木に登って穫ろうと挑戦したが穫れないことに気付いた。友達が教えてくれた方法でドングリを穫ることができた。

😊 10の姿(2) 自分から興味を示して関わっている。  
😊 10の姿(7) 自然物に興味がある。  
😊 10の姿(3)(9) ドングリがどこにあるのか言葉で友達に聞くことができた。

😊 10の姿(6) ドングリを穫る方法を自分で考えた。

😊 10の姿(2) 自分で考えたことを試している。

😊 10の姿(1)(2) ドングリを穫るために全身を使って諦めずに登っている。

挑戦する気持ちを受け止め、一緒に関わり、登れるように支えた。

手を離さずに高い所まで登れたことを認め、教師の嬉しい気持ちを伝えた。

★ 10の姿(3) ロープに登りたい幼児が並んでいることに気づき、友達の気持ちが分かってくるだろう。

😊 10の姿(4) 順番にするなど、今後、友達と関わる中で気付いていこう。

😊 10の姿(1) 自分のやりたい気持ちを表現している。

😊 10の姿(2) ドングリを手に入れるまで、諦めない気持ちがある。

「ドングリが穫れて、嬉しかった～」とつぶやいた。

## 成果 (○) と 課題 (●)

- 「10の姿」を念頭におきながら、よさと可能性の見取りをしたことで、幼児を多面的に捉え内面を理解することができた。幼児は自分の思いを出せるようになり、好きな遊びに自ら関わって遊ぶ姿が見られるようになった。
- 日々の幼児の様子や出来事を職員間や保護者と情報共有したことで、互いの思いを理解し合うことができ信頼関係につながった。それにより幼児は、教師や友達と一緒に安心して遊んだり、生活したりすることができるようになった。
- 今後は、全職員で幼児一人一人を「10の姿」を視点に多面的に見取り、カンファレンスをするための時間を確保する必要がある。